

春告草

第37号 平成28年7月20日 進路指導部発行

受験を意識して夏休みを過ごそう！

「天下分け目の天王山」と言いますが、昔から勝敗や運命の分岐点を「天王山」ということがあります。これは天正10年(1582年)6月、織田信長を討った明智光秀とその仇討ちを果たそうとする羽柴秀吉が戦った山崎の戦いで、天王山を先に占領した秀吉が明智光秀を破ったことに由来するといわれています。

勝敗や運命の分岐点という意味で6年生にとっては、目前に迫った夏休みは「受験の天王山」ということになりますね。受験までにまとまった時間が取れる最後の機会が、この夏休みです。4年生、5年生にとっても、得意科目を伸ばし、苦手科目を克服する絶好のチャンスです。学習計画を立て、夏休みを有意義に過ごしてください。

合格を勝ち取る為の夏休みのポイント

1. **入試情報の収集** オープンキャンパス参加は4年生、5年生の夏休み課題。6年生は既に経験済みですが、第一志望校のキャンパス訪問は、夏休みの1日をこれに充てる価値は十分にあります。入試の本番を想定して家からの所要時間、交通機関の経路などの確認も併せて済ませておこう。
2. **規則正しい生活** 起床、就寝の時刻は決めて、生活のリズムを崩さないことが大切。その上で周りに惑わされずに自分のペースで勉強しよう。
3. **勉強の成果確認** 知識の詰め込みに走りがちな時期ですが、模擬試験や定期考査の問題に再度取り組み、知識のOUTPUTのトレーニングと勉強の成果確認を必ず行いましょう。



大学説明会 & 学部・学科説明会 が行われました

夏休み中はオープンキャンパスが各大学で計画されていますが、これに先立ち6年生とその保護者の方を対象に「大学説明会」が校内で開催されました。これは、各大学の特徴や入学試験、出願に関する諸注意など、入試担当の方からアドバイスを伺うというもの。

各会場では、スライド資料も用いてキャンパス内の様子も上映されるなど、プレオープンキャンパスといった雰囲気でも進行了しました。

国公立大に比べていろいろな入試形態がある私大については、入試方式毎に出願に関する細かな説明もあり、資料に書き込みを加える6年生も多く見かけることができました。

さらに奨学金制度についても説明があり、参加した6年生の保護者の方からは、とても参考になりましたとの感想も寄せられました。

また、期末試験前には4年生対象に「学部・学科説明会」も開かれました。

これらの校内進路行事を今後に活かして、進路研究をさらに深めてください。



入試制度についてはどの大学も詳細な説明がありました。(明治大会場)



三鷹高校卒業の方も大学職員で説明に来ていただきました。(学習院大会場)

大学説明会参加大学

筑波大学
東京外国語大学
東京農工大学
電気通信大学
横浜市立大学
青山学院大学
学習院大学
上智大学
中央大学
東京女子大学
東京農業大学
東京理科大学
日本大学
日本女子大学
法政大学
武蔵野美術大学
明治大学
立教大学
早稲田大学

大学説明会レポート

校内で開催した大学説明会とは別に、高校教員・予備校教員向けの「大学説明会」が各大学で行われています。参加した先生からのレポートをいくつか紹介します。紙面の関係ですべては紹介できませんが参考にしてください。

東京工業大学 (2016.7.2 東京工業大学・大岡山キャンパス・レクチャーシアター)

1. 大学改革について (副学長 丸山俊夫教授)

平成 28 年度より学部・学科を廃止し、学士課程と大学院課程を一本化した「学院一系」で大学全体を組織化した。学士課程 1 年目から、大学院までを見通した研究体制を意図している。

学士課程卒業者の 9 割が大学院へ進学。(約 1,000 人の卒業生に対して、就職者は 100 名、900 人が進学)

募集単位はこれまでの「類別募集」で変更はない。

1 年間で 4 つの期に分けて授業を行う「クォーター制」を実施。メリットは短期間に集中して学び学修効果を高めること、選択できる専門分野の幅を拡充することなど。

平成 31 年度より、すべての専門科目を英語で講義する。

2. 平成 28 年度入試総括と次年度入試 (入試室長 中村吉男教授)

■前期日程

センター試験は「基準点」として利用。出願資格は 950 点満点で 600 点以上。平成 28 年度入試では、87 名が基準点未到達だった。センター試験については、志願者平均 724 点、合格者平均 775 点。

合否は個別試験 (750 点満点) のみで行う。理数系の基礎学力を前提とした、論理的思考能力を評価する試験を実施。じっくり時間をかけて、自分の考えを output する試験を行っている。試験時間は数学 180 分、理科 (物理、化学) 各 120 分。

平均点は、4 科目総合で、受験者平均点が 334 点、合格者平均は 449 点だった。最高点は 641 点。今年度は、物理の平均点 (受験者平均点) が 47.6/200 と低かったが、標準偏差は 24.9 (化学は 26.2) で、受験者の見極めはできたと評価している。

■後期日程

7 類のみで実施。定員 35 名、志願者 509 名の厳しい入試となった。第一段階選抜は 10 倍で実施。今年度はセンター足切り点 814 点。第一段階選抜合格者は 351 名。個別試験の受験率は 33% で 117 名が受験。第一段階選抜合格者に、前期日程合格者が多く含まれていた。個別試験は総合問題 (200 点) で化学分野における学力を見極める。募集要項にも「理系科目 (化学基礎及び化学) を中心とした設問により、基礎学力及び論理的な思考力を評価します」と明記されている。

■特別入試

推薦入試 (第 1 類) と AO 入試 (第 2 類~第 7 類) を実施。詳細は平成 29 年度入試ガイド (大学 HP でダウンロード可) を参照のこと。

特に、第 7 類では、AO 入試で「生物に関する、基礎学力、論理的思考力及び記述力を評価」するところが特徴。面接も「生命理工学分野に対する志望動機、学習意欲、論理的な思考力及び適性を評価」とあり、AO 入試では、受験生の生物学、生命理工学方面への志向性を見極めたいようだ。

3. 受験勉強の要点 (アドミッションセンター長 山中一郎教授)

■数学

・解答用紙は A3 縦サイズ。全て記述式であるから、論理的かつ明快な答案を示す思考力、表現力が求められる。今年度問題で「論証が書きにくかったと思われる」と採点官が評価した問題は、大問① (数Ⅱ 放物線上の動点と円周上の動点との距離の最小値問題)、② (数Ⅰ 確率)、④ (数Ⅰ 整数問題) の 3 問。

大問⑤ (数Ⅲ パラメータ表示された曲線の概形と面積の問題) は、計算が煩雑ではあったが典型問題の為、得点率は高かった。

・サンプル抽出による各問題の平均点は以下の通り。(各 60 点満点)

大問① (19.0 点)、② (23.8 点)、③ (35.2 点)、④ (24.1 点)、⑤ (42.0 点)

■物理

・大問 3 題 各 50 点満点の計 150 点

・大問別の平均点は、① (16 点)、② (16 点)、③ (16 点)

・大問① (力学)

[A](a)で運動量保存則を用いるところがポイント

[B](e)「糸の張力がどこでも同じとする」など、状況を把握しないままむやみに「パターン」で解答し、失敗している答案が多数。

・大問② (電磁気)

[A]円運動する導線の誘導起電力や働く力を解く→定番でないため差が開いた。

[B]回転子を交流発電機とした、並列共振現象→公式を当てはめれば解けるという平易な問題ではないので、一定以上の学力の無い受験生はほとんど得点できなかった。

グラフの問題は出来が良い。

・大問③ (力学の要素を融合した熱力学)

- (a)(d)液体圧力、ばねの力を考慮して理想気体の圧力を求める→単なる力のつり合いと考えた誤答が多数
- (c)大気に対する仕事を考慮しない誤答多数、計算が不正確な答案多数
- (d)正答率低い

※大問③は熱力学または波動が出題される傾向が続いている。大問①、②も例年通りの出題分野だった。

■化学

- ・大問3題 各50点の計150点
- ・各大問は独立した小問集合(3~5問)で構成され、全体の問題量は19問で例年並み。
- ・試験時間(120分)を考えると問題数は多いとは言えないが、複雑な計算を要する問題も多く、要領よく解き進めることが要求される。
- ・解答形式は記述式で、計算問題は指定された枠内に1字ずつ記入させる。正誤問題は伝統的に「正解が1つまたは2つ含まれる」問題が出題されるので、正確な知識が要求される。
- ・3分野(物理化学、無機化学、有機化学)から万遍なく出題される。
- ・うる覚えの知識では対応できない。
- ・この分野から必ず出ずという傾向はなく、幅広い分野から出題される。
- ・問題数が多いので、時間配分が必要。(一つの問題に時間をかけすぎないように注意)
- ・複数選択肢問題は、「正解が一つまたは二つある」形式で長年この傾向が続いている。
- ・記述問題には、正確に解答を書くこと。
- ・有機化合物の構造式や式の記述などは正確に書く。
- ・計算問題が正確にできないと、高得点は望めない。特に、有効数字の扱いに習熟する。

東工大オープンキャンパス
2016.8.11 10時~
☆入試問題実物(解答用紙付)
配付あり(部数限定)
(百年記念館(正門入って直ぐ右側のビル)で先着順)
まずはここで入試問題をGET!
施設見学、イベント参加はその後で

■英語

長い英文の内容を迅速にかつ的確に把握する能力と文脈の理解力、作文能力が要求される(入学後、英文での論文作成に要求される英語力を診断するテストを実施している)

- ① (1500語) 英文の内容は理解しやすく、例年よりやや短めの為、合格者の出来は良い
- ② (700語) 文意がとれず出来が悪かった。文脈把握、要旨をまとめる力の乏しい受験生が多かった。構文の把握、文脈の把握が大切。文意を読み取る力が必要。

立教大学 (2016.6.11 立教大学・池袋キャンパス・タッカーホール)

入試センター長 家城和夫理学部物理学科教授 他

1. 入試に関して

- 出願 Web出願へ全面移行(入試要項もPDF版をダウンロード)ただし、複数学部を受験する場合などのWeb割引は無いようだ
- 併願 全学部入試も含め、試験日が同一の試験では、複数の募集単位の併願は不可
- 合格発表 第1回目合格から第3回目合格まで分けて合格発表を行う
第4回目発表については、現在検討中(補欠発表は、行わない)
- 入試対策 問題作成については、チームで作っているの、学部間の違いはない。
出題傾向は類似しているの、他学部の過去問題でも十分に演習が可能。
- 入試形態 一般入試(全学部日程、個別学部日程、センター利用)の他、自由選抜方式、国際コース選抜入試などがある。
自由~、国際~は出願が9月なのでAO、自己推薦入試的な入試形態と思われる
- GLAP入試 グローバル・リベラルアーツ・プログラムを2017年度より開始。入学時に特定の学部・学科を選ばない方式。
全ての授業科目を英語で実施。1学年20名程度の少人数教育を実施。全寮制。全員留学(学費負担は立教大学の学費のみ)
- 経済学部で「思考力入試」を新規実施 自由選抜方式の範疇に入るが、経済学部では2017年度入試より、新テストを開始する。出願要件に、英語の資格証明書提出がある。書類選考の後の2次選考は、筆記試験と面接。サンプル問題が提供されているが、現代の政治や経済に関する知識や関心、基礎的な数学的能力を問う内容。細かな知識を問うのではなく、日頃から新聞やテレビなどでニュースに親しんでいれば解答できる問題。
- 入試科目 政治・経済での受験が可能になった
- 定員 一般入試とセンター利用入試で募集定員増の予定

土曜日午後開催の開催だったが、キャンパスを訪問している年配のグループを多く見かけた。大学OB、OGと思われるが、愛着が湧くキャンパスの雰囲気も漂い、立教カラーを強く感じた。
一方で奨学金制度も複数あり、大学入学者に対する支援体制も充実している。

2. カリキュラムに関して

RLS RIKKYO Learning System を2016年度より開始した。学士課程統合カリキュラムという趣旨で、学年進行によらず、「学修期」に基づくカリキュラムを実現している。

3. 就学支援に関して

奨学金 給付型の奨学金制度が複数ある。現在33種、764名の学生が給付を受けていて、希望者の2人に1人が給付されている。2017年度より、首都圏出身者を対象とする「セントポール奨学金」を始める。入学前予約制で出願時に申請する。

1. 入試制度に関して

試験方式 5方式(統一入試、一般入試、センター併用方式、センター単独方式、英語外部検定試験利用入試)で変更なし
 入試日程 今年と同じ(2/8理工学部センター併用入試で始まり、2/16総合政策学部で終わる。)

主な変更点

- ① 法学部
 - ・センター単独方式 5教科型→4教科型(理科なし)へ変更
 - ・センター併用方式は、事前出願→事後出願へ変更
(センター単独4教科型は従来通り事後出願) 1/5~1/24
- ② 経済学部
 - ・募集人員の変更
 - ・試験方式の変更 センター単独方式を4教科型→3教科型に変更
- ③ 商学部
 - ・一般編入学試験を廃止
- ④ 文学部
 - ・募集人員の変更(独文科 15→20)
 - ・試験科目の変更 外国語試験で「フランス語」を廃止
 - ・試験方式の新設 ドイツ語、フランス語特別入試を新設
- ⑤ 総合政策学部
 - ・募集人員の変更
 - ・出題範囲の変更(一般入試の「国語」で「国語総合(古文・漢文を除く)」→「国語総合(漢文を除く)」

他大学が学部新設で志願者を増加させる中、中央大学は総合政策学部の開設(1993)以来、6学部体制をとっている。多摩キャンパス(1978年移転)といった場所の影響か、志願者減少が続いていたが、受験料減額措置の努力などもあり、今年度は増加に転じた。法学部の後楽園キャンパス移転は2022年度の予定だが、志願動向に関してはプラスに働く要素だ。次年度入試で志願者がどう動くかに注目しよう。

2. 受験料減額措置

- ① 統一入試の選考料特例措置 受験料は35,000円だが、2つ目からは1募集単位につき15,000円
- ② 一般方式に出願する場合、センター併用、センター単独の受験料が無料になる。ただし、同一学部内&同一試験日&同一願書 であるなど適用条件を満たす必要あり。

3. センター利用方式について

- ・3教科型で4教科以上受験した場合は、高得点科目を採用する
- ・理工学部理科は第1解答科目を採用する。

4. 理工学部数学試験について

4題出題するが、3題を選択して解答。解答番号に○をつけるが、○のつけ忘れは0点扱いする。4題全部を解答しても、○をつけていない場合は0点扱いとなる。

首都大で学部再編

平成30年度入試(現5年生受験年度)より

首都大の教員向け説明会が7月12日に南大沢キャンパス・講堂小ホールで行われました。今年度入試の総括などもありましたが、第36号で既にレポートした通りですので、ここでは省略します。

首都大に関しては平成30年度入試より大きな変更があります。それは、現在の都市教養学部を廃止して、現在在同学部を構成している4つの系を独立した学部再編するというもの。

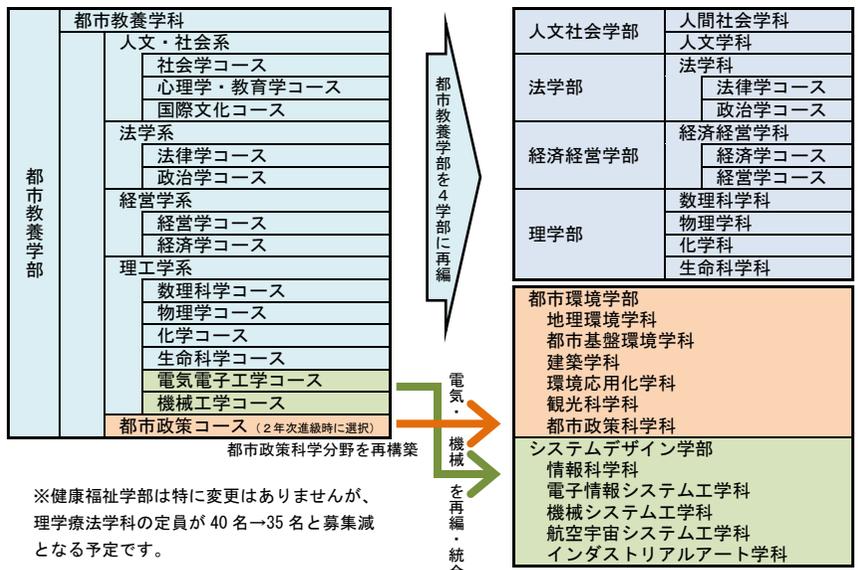
すなわち、都市教養学部は、人文社会学部、法学部、経済経営学部、理学部の4学部再編されます。

理工学系が純粋理学部に再編されることにより、これまでの理工学系電気電子工学コースと機械工学コースはシステムデザイン学部

に組み込まれ、情報系分野と機械系の生命分野が強化されます。

また、都市環境学部には観光科学科と都市政策科学科が増設されます。詳細は未定ですが、受験科目から観光科学科は理系学科、都市政策科学科は文系募集枠と理系募集枠を用意しているようです。

(※来年度入試には影響はありません。卒業時も現学部での卒業となります。)



※健康福祉学部は特に変更はありませんが、理学療法学科の定員が40名→35名と募集減となる予定です。